

300人のデモで

第85回港メーデー

地域に訴え！



五月一日一〇時より入舟公園において「解釈改憲・貧困にNO! 『戦争する国』づくりを許すな!」のスローガンを掲げ第八五回港地域メーデーが開催されました。

全国金属機械労働組合 港合同
大阪市港区南市岡3・6・26
TEL 06・6583・4858
FAX 06・6583・4600

八時間労働制守れ

冒頭、司会の港合同・S執行委員から、言うことが沢山ある。解釈改憲、集団的自衛権、原発の再稼働、TPP、消費税増税の問題がある。労働法制では派遣法の大改悪、更には残業代ゼロを全労働者を対象に行おうとしている。メーデーは八時間労働制を求めるアメリカの労働者から始まった。この時期に残業代ゼロを押し付けようとしている安倍の暴走を止めなければならぬ。本日のメーデー、この暴走を止める闘いの出発点として勝ち取っていききたい、と開会の挨拶がありました。

労働者を犠牲にする 規制緩和

主催者を代表し港合同・中村委員長から大きな意味での規制緩和について問題提起がされました。規制緩和が労働者や国民にとって良いことなのではないかと錯覚を受けている。現実には反対で我々の生活が大変な問題になっている。今回の韓国のフェリーの事故、規制緩和することによって大きな事故が起こったと問題視されている。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

各産業の労働者が低賃金と長時間労働に追い込まれている。非正規労働者が大多数を占める状態になっている。

そういう中で我々はこれから一つ一つの課題に對峙し、闘い以外に生きる道はないということをお互いに本日のメーデーで確認したいと思う。

そして色んな意味での規制緩和に對して、労働者の生活や質がどうなるのかという所に視点を置いて、これからも頑張り抜いていこうと、挨拶されました。

立憲主義否定の解釈改憲

無関心⇨安倍支持

NO!をつきつけよう

共催者の特定非営利活動法人NPOみなどからT代表理事の挨拶を受けました。

二〇〇〇年の一〇月から特定非営利活動法人として活動を続けてきた。健康・地域交流・平和をキーワードにして活動し地域と交流してきた。

解釈改憲の問題はスローガンにある平和を揺るがす大きな問題であるのでこのことについて一言申し上げたい。

解釈改憲そのものが憲法を頂点とする立憲主義を脅かすものである。朝

日新聞に憲法学者である南野森（みなみの・しげる）さんがコメントを書いておられたので抜粋して紹介をしたい。

「解釈が規範を明らかにする。集団的自衛権とはミスリーディングな名称である。自衛権というより他国防衛権つまり『他衛権』がその本質にあって、自国が攻撃されていないのに戦闘を始めるというこの権利は美に恐ろしい。

戦後日本は憲法九条の下で自衛隊を保持しその活動の幅を広げてきてしまったが、それでも、諸外国のような自国防衛も他国防衛もできる普通の

戦力ではなく自国防衛に必要最小限の実力のみが許されるといふギリギリの政府解釈を維持してきた。もしこの集団的自衛権を解釈改憲とするならば自衛隊は諸国と同じ普通の軍隊になり、したがって九条は独特の軍事力制限規範としての意味を失ってしまうだろう。それこそあってもなくても同じになる。もし仮にかかる国柄の大転換が望ましいとしても憲法改正をすっ

飛ばし、一内閣の一存で決めてよいはずがない。ある政策を実現しようとする時、それが法律で禁じられていれば政策を諦めるか法律を改正する。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

憲法で禁じられていれば同様に政策を諦めるか改憲するかはいずれしかなない。これが立憲政治の本道である」と言っている。

今安倍政権が行っていることは極めて危険な禁じ手である。これによって憲法九条をないがしろにしていく、形骸化していくやり方について我々は、はっきりとNOを突き付けなければならない。無関心であることは時の権力者にとって静かな支持に過ぎないと言った方がいる。まさしく我々はそれぞれの立場で立ち位置を見極め声を上げていかなければならない、と挨拶されました。

在日朝鮮人運動の歴史かけ闘う

続いて来賓として朝鮮総聯西大阪支部委員長から挨拶を受けました。

五月には総聯の二十三日回全体会議が開催される。東京の中央会館の問題がある。裁判所がこれを奪い取ろうとしている。競売にかかっているが一位で落としたモンゴルの会社が書類不備ということ却下された。今、全体会議を控えた緊迫した状況の中で奪われるか守れるかの瀬戸際に来ている。在日朝鮮人運動六〇年から七〇年の歴史がある。抵抗されればされるほど団結が強化される。高校

無償化、補助金の問題など山積しているがこれからも私達の運動に対して暖かく見守り協力をして頂きたいと訴えられた。

基調報告

続いてメーデーの基調報告を港合同・H副委員長が行いました。

▼メーデーの起源

一八八六年にアメリカの労働者が八時間労働制を要求してゼネストを打った。それに対し権力から多くの労働者が殺された。そういう歴史と闘いによって国際的な労働者の連帯の証として五月一日のメーデーというのがある。八時間労働制を求めた労働

者の闘いの歴史であるということを確認しておくかなければならない。

過日行われた連合の中央メーデーにあらうことか八時間労働制を根底から否定する安倍首相を呼んでいる。当日は多くのヤジが飛んだと報道されている。どう考えても異常な、理解し難い連合中



組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

央の対応である。

▼戦後憲法の意味

集団的自衛権の問題は簡単に言えば自衛隊を世界どこにでも派遣してアメリカと一緒に戦争する国にしたい。

日本はかつて国策を誤りアジア諸国に侵略した事実を忘れてはならない。その犠牲者は日本では三百万人。アジア諸国では二千〜三千万人の尊い命を奪った。敗戦を迎え憲法を作り出すことが出来た。長い歴史と多くの犠牲の上に作り出された憲法であるということをしつかりと確認しておかなければならない。

立憲主義とは権力を縛るもの。今の憲法の基本的な線。

戦後六九年、自衛隊は海外に出ても、一人も相手を殺す事は無かった。憲法九条が有ったからこそ権力を縛りそういことをさせなかった。

今、自民党が出している改憲案は権力を縛る物から国民を縛る物に変えようとしている。このような改憲案を我々は許す事ができない。

▼格差と貧困を

おい隠す国家主義

なぜこれほどなめちやくちやな物が出てくるのか、それは二〇〇八年の

リーマンショックによって金持と貧乏人の二極化になった。貧しい物をどのように押さえ支配していくのか、それはナショナリズム・国家主義。

日本が行ってきた侵略戦争や「従軍慰安婦」など全部ウソだと東京知事選で言った候補が居たが歴史の事実を消す事はで



きない。港合同は春闘以降、日本がアジア諸国に対してどのような事をしてきたのか、その事を連続して学習をしながら、自分達の立ち位置の理解を深めるといふ事で学習会を重ねている。今後も組合員の皆さんに参加を重ねて要請します。

▼福島原発事故―

五千万人が避難の危機

菅元総理が福島原発の原発に対して本を出した。福島第一原発の四号機、二本を越える燃料棒が貯蔵されていたがあの四号機の燃料棒がメルトダウンしなかったのは奇跡と書いている。もしメルトダ



ウンを起こしていれば福島第一原発に近寄れない状態になる。半径二五〇キロは人が住めなくなる。二五〇キロは東京都がすっぽり入る。五千万の人間が関東を中心として避難をせざるを得ない事態になる。国家そのものが崩壊する寸前までいったような事態になりながら未

だに原発の推進をしている。この姿勢こそが問題である。

▼労働組合こそ権利を守る

未組織の組織化を

最後に日本には憲法があり法律があり労働基準法があり労働組合法もある。しかし法律があっても知らなければ権利を主張する事はできない。又一人で声を上げてても資本は相手にしない。労働組合を作って組織的に闘う事によって初めて法律の権利や労働者の権利が守る事ができるんだということを経験に銘じ、このメーデーを一つの起点として未組織の組織化に組合員

の皆さんが更に奮闘しようと呼びかけられました。

三〇〇人のデモで訴え

最後に港合同・N副委

員長の団結ガンバローで集会を終え、沿道の住民にスローガンに掲げた諸問題についてピラをまき、シュプレコールで訴え田中機械までデモを貫徹しました。

デモ終了後、港合同・

西村事務局次長の司会で二部の集会。前段の集会で時間の都合上、行えなかったメーデー宣言の提案を南労会支部の樋口組合員が行い、参加者全員の拍手で確認しました。続いて港合同各支部・分



会・友好団体・奥野市会議員の代理として江川博さんが紹介され、挨拶を受けました。

その後、晴天の下、楽しく交流会を行いました。準備されたもちつき実行委員会を始め、協力して頂いた皆さんに感謝を申し上げます。

南労会支部・K

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！